



タバコはいつ日本に伝わってきたの

南蛮船によって伝わった

タバコは、永禄から天正にかけてのころ（1558～1592年）に、南蛮船によって、九州に伝えられたようです。これは、戦国時代から安土桃山時代にかけての時代、ということになります。豊臣秀吉が、朝鮮半島に兵を送った、文禄・慶長の役（1592～1598年）のときには、朝鮮半島の人々にも、伝わりました。さらに、日本へ帰ってきた兵によって、全国に広まったと、いわれています。

江戸幕府の禁煙令

タバコが広まると、タバコの火を原因とする火災が増えました。1609年には、江戸幕府が、火災の予防、節約などの名目で、禁煙令を出し、タバコをすった人を、きびしくばっしました。しかし、ききめはなかったようで、その後もたびたび、禁煙令が出されました。それでも、タバコは、江戸城にいる人々にまで、広まりました。各地の大名の藩でも、タバコづくりに、力を入れるようになりました。その結果、薩摩（鹿児島県）の国分など、タバコの名産地が、生まれたわけです。（監修・田代 脩）

